

| | |
|-------|---------------------------------------------------|
| コース | B コース |
| プログラム | ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校 Intensive English Program |
| 渡航国 | アメリカ合衆国 |
| 渡航期間 | 6 週間 |
| 所属学部 | 国際教養学部 |

1. 研修内容

私は今回の第二クォータープログラムで、ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校での英語語学研修プログラムを選択した。本研修では英語のリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4方面の技能の向上を主な軸として、プログラムが組まれていた。全ての技能を万遍なく向上させることが出来たように感じるが、その中でも特にスピーキングとライティングの授業が印象に残っている。

スピーキングの授業では、一人ひとりに異なるトピックが与えられ、そのトピックに関して即興で3分程度のプレゼンテーションをする、といった課題が何度かあった。トピックが与えられた後、プレゼンテーションの前に2～3分の準備時間はあったが、元々プレゼンテーションが苦手であることに加え、それまであまり考えたことの無い内容について英語で話さなければならなかったため、私にとってはとてもハードルの高い課題であった。

ライティングの授業では、4～5つの段落で構成されたエッセイを書くことを本研修での最終目標として、論理的に読み手を納得させる文章の書き方を学んだ。与えられたトピックについて、考え得る反対意見にも触れながら、自分の意見を展開させなければならず、自分と違う立場の人がどのように考えるかも考慮しなければならないという点で、人を納得させるためには多角的な視野を持って論を展開していく必要があることも、学ぶことができた。

また、その他に、語彙力を強化するための授業も設けられていた。この授業では、クラスメイトとペアになり、現地で学んだ新たな語彙についてクラスにプレゼンテーションするという課題があった。スライドの制作や語彙の説明、新たな語彙を使った会話の作成など、プレゼンテーションの準備の中でペアと沢山の相談をする必要があったため、全授業の中でも特にクラスメイトと会話をする機会が多かった活動として、印象に残っている。

2. 自身の変化

私は本研修の授業を通じて、これまでよりも積極的に授業に参加することができるようになったのではないかと思う。アメリカの授業は、日本で受けてきた授業に比べ、より積極的な姿勢が求められるものであった。例えば、日本の授業では、生徒は先生に指名されてからの発言をするのが一般的であるが、留学中は先生が投げかけた質問に対して、意見を思いついた生徒から次々と発言するのが一般的だった。初めのうちは、そういった日本とは違う学習環境に慣れることができず苦労したが、時間が経つに連れて、少しずつ、自分の意見を持ち積極的に発言できるようになったと感じる。

また、留学前に比べて、「どのようにしたら自分の考えを伝えることができるか」を考えながら、意見を述べるようになったように思う。1で述べたように、プレゼンテーションやエッセイの授業等、本研修の中で、「人に伝える」ことを目的とした内容から多くのことを学ぶことができた。相手の立場も考えつつ自分の意見を伝えられることは、英語に限らず、日本語であっても必要不可欠な能力であるため、今後も常に意識していくべきだと考える。

3. 今後の展望

今回6週間の研修に参加してみて、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能のうち、私が今後最も強化すべきなのはリスニング力であると感じた。どの技能もスムーズな英語の運用のためには欠かすことのできない要素であると思うが、本研修を通して、友達との1対1でのコミュニケーション時はもちろんのこと、授業や公共のアナウンス等、1対多数で英語が使われる際のような場においてもリスニング力は欠かせないスキルであるということが分かった。動画やラジオ等を通じて、日本でも英語を聞くことを習慣化できればリスニング力の強化に繋がると思うため、自分に合った方法で、リスニングの練習を継続していこうと思う。

また、今回参加したプログラムは英語の語学研修であったため、クラスメイトは英語を母語としない国から集まっており、クラスメイトと話をする中でも多様な文化を学ぶことができたと感じている。将来はグローバルな環境に身を置いて仕事をしたいと考えているため、今回の経験をきっかけとして、今後は今まで以上に異文化にも興味を持ち、理解を深めていきたい。